

さみしい夜の句会報 第132号 (2023. 8. 27-2023. 9. 3)

- ◆ 参加者…とるぼーる、修平、しまねくん、ひろま、宮坂葵哲、  
リア20、凧ちひろ、雪上牡丹餅、さー、雷(らじ)、あやめ、stussy、  
佐竹紫田、西脇祥貴、海馬、上崎、燕雀之心、日月、星香、元さん、西  
沢葉火、なごわ、おかもとかも、うつわ、マトリョ、温(ぬ)、水の  
眼り、まつりべきん、石川聡、須賀、善昭、蔭一郎、まつもとまひ、  
汐田大輝、雪の空SO<sup>2</sup>、At Nichtraucherin、萩原、アオイ、鷺沼くぬ  
ぎ、ゆりのはな、輪井ゆう、石原とつき、片羽 anju、雲雀、りゅう  
せん、hyutoppa、突波、Take、碧乃、そら、鴨川ねぎ、花野玖、透影  
弦、岡村知昭、何となく短歌、奥、かすみ、花乃、もふもふ、moca、  
藤野、萬某、うたたね演、墨貫、たろりずむ、岩瀬、百、東、ご、み  
や、しろとも、阿笠香奈、涼閑、流天、Bonslippy(モンモン)、古城、  
みくたん、森紗季、M\*A\*S\*H、星野響、はげ、crazylover、donkey、  
月波与生(七六名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- 水蜜桃いつ軌道からはぐれたの 星野響  
海を汚す日あかんぼが空を指す 海馬  
居心地の良い缶詰の研究室 修平  
夏服で腹を壊した洗濯機 さー  
くらげ降る暮改広場はとこしへに 西脇祥貴  
どん底の真下を掘ってみたい夜 修平  
対岸に過去分詞また流れ作業 おかもとかも  
虫籠に演技を見抜けない男 しまねくん  
交差点あたりに咲いた口内炎 上崎  
浮ついたシャトルバスとは縁を切る りゅうせん  
月からの非通知通信耳のびる 汐田大輝

ベルトから上の部分が虫籠で　しまねこくん  
床板を押すと出てくる俺らしき　おかもとかも  
光熱費いつも馴れ馴れしい魚眼　おかもとかも  
残念な話を聞いたままでいる　雷  
握手したあと手に残る秋の海　蔭一郎  
瓢箪の下がるのきした足ぶらり　水の眠り  
貞操の渋滞に赤い羽根　水の眠り  
どんなに抗ってもししやもは校則ときどき群馬　石原とつ  
き  
指切りげんまん「そこまで葉緑素を馬鹿にする？」　石原  
とつき

都合よく切り取りましょう星月夜　ひうま  
I Love you 言えて言えない愛してる　宮坂夏哲  
濡れた股そのままの十七夜　ダリア 220  
潮を吹く専売特許買い取った　雪上牡丹餅  
空蟬の爆ぜたふうせん片付ける　あやめ  
好きな娘の名を言はされて西瓜喰ふ　syusyu  
ミス多き日の帰り道草の花　佐竹紫円  
行く夏を惜しんで鳴く虫の音よ　日月　星香  
名古屋常勤のシヤチホコ　西沢葉火  
おやすみと月に手を振るこんな夜　なごわい  
怖れをも遙かに凌ぐ好奇心　マトリョ  
日没に歩を裏返す Thursday　まつりへきん  
おばあさんと日傘が坂を浮いてゆく　石川聡  
夏の朝定礎は堤康次郎　須賀　善昭  
謝れば笑顔になった夫の瞳　まつもともこい  
天人の唐草は青空に映え　Nichttraucherchen  
満月が昨日だったのは気のせい　鷺沼くぬぎ  
留守電に残る声まだあたたかし　ゆりのはなこ  
こっそりと荷物を棄てゲリラ豪雨　輪井ゆゆう

ネフェルティティのアイデンティティ 片羽雲雀

隙あらば大金鹽ビオレU うつわ

天牛やBの縦棒切れば3 Hyutoppa

街灯の背伸びしてゐる月夜かな 花野玖

満月の夜カピバラになれぬ夜 岡村知昭

バスソルト入れてみたいが皮膚が拒否 花乃

姑と波長の合わぬ熱帯夜 もふもふ

居座るのか往生際の悪い先輩だ うたたね凜

中国は人口テロや水澄めり たろりずむ

何度目の運命ですか夏の花 東ころ

パフュームになれない夜の天花粉 しろとも

出来れば優しい人で居たい 阿笠香奈

2番線ホームの別れ明日も雨 涼閑

大工打つかナヅチの音虫すたく 流天

星空をちくわでのぞく婚約者 森砂季

農業を廃業しても居る案山子 マタノキ

みんな集まる 濡れている人もいる 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

マス目に沿って向かったらズルした人が早かった それで  
いいんだ 比島アルト

秋という季節を忘れた星だから夏休みは二度あってもいい  
よね 鴨川ねぎ

お煮しめの味はいつしか母になり濃い味にがての家族がで  
きた 水の眠り

お盆には帰ってこれない将来が天涯孤独にじわりと迫る  
萬某

早星 スーパームーンに照らされたモアイ像の列に並びた  
し 碧乃 そら

あれもしたい、これもしたいと思っちゃう寝るしかないの  
に、風邪ひきの午後 風ちひろ

やなことがあった夜は…ただただ寝るそんな夜は いい夢  
を見る 燕雀之心

十六夜の闇も溶かして月を浴び心の隙間忍び込む夜 元さ  
ん

君だつて抜け出したいともがいてる思つて手助け自己満言  
われ 雪の空SOとA

願掛けのように伸ばした爪先の折れて終わりの近さ占う  
萩原 アオイ

誰もいない深夜の公園待ち人は知らない世界へ誘うあなた  
Take

痛いなら跡を隠すよ。だからほら、いちにのさんでにつて  
笑つた。 透影 弦

円い月をただそのままに愛せずに翳り求める己の冥さ 何  
となく短歌

心臓が君の手に触れ打った夏 夜空の花のように消えゆく  
奥 かすみ

ひかりの海に飛び込んであなたは飛び立つのでしよう、私  
はひとり 月色萌果

あれは、そう 君のとなりにな人生がまだ輝いていた頃のこ  
と 藤野

一度きり跳ねたカエルの着地点見つからないのに君はそこ  
にいる 黒音

ヤリング、カギ、ネックレス絡まって出てくるよときの死ぬ  
蝉の声 岩瀬百

灯火を分け与えるとそういえば少女は笑う背伸びの煙 み  
や

勝ち上がる小柄に不利な組手でも帯しめ直し鼓舞に応える  
古城  
泡沫と 忘れ得ぬ想 秋の波そつと届けて 密輸恋箋 み  
くたん

◆詩

夕暮れの雲の間を 北へ南へ鳥が飛ぶ  
帰るところがあるんだね  
明日もこの空を飛んでくれるといい  
君らが帰った方角を しばらく眺めていた(とるばどーる)

煙草の煙を  
吐きながら  
怒哀の靄も  
吐き出して  
空に散らばり  
消えてゆく。  
天空に居るキミに  
助けてほしくて。

(温(ニ))

◆作品評から

プッテいんと割るあまりにも永い夜 行  
〜「プッテいん」はなかなかいい音を持ってきたと思う  
が「うつぶん」でも「あっはん」でも句の魅力がそんなに  
落ちないのが辛いところ。(月波与生)

ヘーヒーコターヤジス人恋の色裾 森砂季

〜川柳書きが一度は書いてみる句です。ボクも似たようなの作りました。無数の屍の上に花は咲きます。(月波与生)

ネフェルティティのアイデンティティ 片羽雲雀

〜これは七七ですね。(西沢葉火)

尾灯 (テールランプ) 「コツチ見ろ」 AM02:02 まつりぺきん

〜まつりぺきんは第2形態に入ったようだ。(月波与生)

とりあえずビール以外のふくらはぎ 海馬

〜「ふくらはぎ」の句は先に「歩いたことないリカちゃんのふくらはぎ 八上桐子」という鮮烈なのがあるので使いにくいんだけど、上手く躲してリカちゃんとは世界を作る。(月波与生)

あなたへの裸体をしまふ処暑の風 syusyu

〜「夏をあきらめて」を思い出しました(古いですね)

桑田佳祐があれだけの言葉と音で描いた世界を「音で表現されたのは見事です。(月波与生)

主義あれど種なしシャイン・マスカット 石川聡

〜うまいなあ。こういう句を書ける人は川柳の大会なら賞取り屋さんになれる。明るく楽しい川柳ライブが待っているよ。(月波与生)

たくさんの小わけにされたしあわせをネオンの町で少女がくばる 比島アルト

〜「たくさん」は街角で配られるポケットティッシュだったりコンビニのレジの人の笑顔だったりするのだろう。

日々あなたへ配られるしあわせ。(月波与生)

どこまでもするめの味の宇宙とは 太代祐一  
ヌードルの♡分のちの嫌な声 太代祐一

「するめの味の宇宙」がどこまでも続くのはとてもイヤだと思う。ヌードルの匂もイヤな感じが伝わって来て面白い。(月波与生)

裏方ですつとかかはりたき佞武多 syusyu

「自分は青森の人間なので佞武多(ねぶた)祭りには鳥肌が立つほどの愛着がある。『ずつとかかはりたき』が祭りのはかなさを言い表してが切ない。(月波与生)

どん底の真下を掘ってみたい夜 修平

「ただ楽しめています。」素晴らしいですね!

これが実は一番大事だと、個人的には思っています(笑)  
(まつりぺきん)

都合よく切り取りましょう星月夜 ひうま

「わー 季語がステキに皮肉(こはく)

指切りげんまん「そこまで葉緑素を馬鹿にする？」 石原  
とつき

「青汁の緑は葉緑素の緑だと思ひ込んで飲み込むべし。  
約束破って指切りげんまん針千本飲むよりはずつとまし。

葉緑素を飲み込んで、あなたは草木の仲間入り、とならないのは葉緑素をまだバカにしてるからではありませんか?

(岡村知昭)

瓢箪の下がるのきした足ぶらり 水の眠り

「残暑の中、もう秋の匂いが。日陰で涼んでいる姿が浮かびます。(crazy lover)

貞操の洗滌に赤い羽根  
〜ごまい！ (donkey)  
水の眠り